

『あなたも弟子では』(ヨハネの福音書 18章 15-27節) 2023.2.19.

<はじめに> 園でイエスが捕らえられた夜、弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げてしまいました(マタイ 26:56)。深夜になり、シモン・ペテロはもう一人の弟子の手引きで大祭司の家までイエスを追跡し、その中庭の炭火を囲む大祭司のしもべ・下役たちの中に紛れて、様子を伺おうとしました。

I 「弟子ではない」

①もう一人の弟子(15,16)

大祭司の知り合いであったこの弟子が誰なのかは、意見が分かれます。ガリラヤの漁師である使徒ヨハネよりも、エルサレム出身の別の弟子と見る人もあります。イスカリオテ・ユダならば大祭司と通じていたのでは、という意見もあります。あなたはどうか考えますか。

②3度の否認(17-18,25-27)

2度の問いはイエスの弟子ではないことを念押しするもので、3度目の問いは園でペテロが耳を切り落とされた者の親類の目撃証言に基づく決定的な嫌疑です。ペテロはいずれにも否定で返します。彼は昨夜の決意と覚悟(ルカ 22:33)を何故翻したのでしょうか。

③イエスとの距離感

「ペテロは遠く離れてついて行った」(ルカ 22:54)のです。イエスに追随しようとしながらも、距離を置いたのは象徴的です。イエスよりも自分の方が大切で、イエスと同じように見られ、扱われることへの恐れがあったからでしょう。だから、「違う」(17)と言ったのです。

II イエスが示す弟子像

①同じところにいる(ヨハネ 12:26)

「わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることとなります。わたしに仕えるなら、父はその人を重んじてくださいます。」

②弟子のしるし(ヨハネ 8:31, 13:55)

「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。」(8:31)
「互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」(13:35)

③弟子の道(ルカ 14:26,27,33)

「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら」(26)、「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は」(27)、「自分の財産すべてを捨てなければ」(33)、「わたしの弟子になることはできません。」(26,27,33)

III 「あなたもあの人の弟子では」(17,25)

①「あなたも」と問う声

この問いは私たちにも向けられています。イエスの弟子だと自認する以上が求められています。それをどのように私たちは表しているでしょうか。それはイエスが望まれているようにでしょうか。ペテロは弱い愚かな者だった、と一刀両断できるでしょうか。

②「あの人が」してくださったこと

捕らえようとする一団から弟子たちを逃がすために、イエスは「わたしがそれだ」と立ちほだされました(5,6)。ペテロが剣で切り落としたマルコス(10)の右耳を癒されました(ルカ 22:51)。すべての人の罪を赦すために、イエスは父からの杯を飲み干されました(11)。

③イエスの傍らに立つ

3度目の問いでペテロ自身の過ちが突き付けられたとき、彼が正直に「私がそれです」と告白したなら、どうなっていたでしょう。イエスは罪人となって十字架に架けられました。イエスの弟子の第一歩は、自分の罪に気づき、それを主の御前に告白することです。

<おわりに> ペテロの失敗に先立って、イエスは彼のために祈り(ルカ 22:32)、彼の過ちを覆われました(ルカ 22:51)。主の愛は私たちを先回りして待ち構えています。今からでも、主の足跡を追い掛けて、正直に自分を表す者を、イエスは喜んで迎えてくださいます。(H.M.)